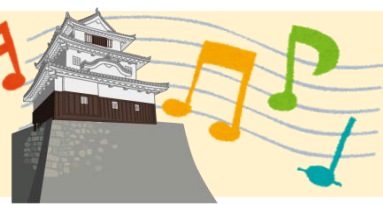


みんなの劇場通信！

Vol. 6



市民ワークショップ かわら版

劇場に関わるお金について考える

丸亀市では、「（仮称）みんなの劇場」の整備に向けて、どのような事業を行うのか、どのような機能や規模の施設にするのかを検討しています。市民の皆様から様々な意見をいただくために、7月から5回にわたり市民ワークショップを開催してきました。

最終回となる今回は、前回のワークショップで作成した劇場のモデルケースをもとに、建設・管理運営にどれくらいのお金がかかるのか、また、そのお金をどんな風に使って欲しいのかを議論していきました。



関わり方で変わる価値

まずはじめに、前回のワークショップで作成した劇場のモデルケースを参考に、建設や管理運営にかかるお金を算出しました。「そのお金が、自分にとって高いと思うか、安いと思うか。なぜそう思うか。」を考えていきました。

「今後、人口が減っていく中で、一人あたりの負担額が増えていくので高いと思う。」といった意見や、「これまでワークショップで議論してきたことをうまく取り入れていければ安いと思う。」といった意見が挙げられました。生活環境や価値観が違う中で、「劇場をどういう風に使っていくか」が重要であるという部分は共通していました。お金がいくらかかるかということも大事ですが、それに見合った、また、それ以上の価値を生み出していくことが重要です。

全ての市民の支え

二つ目のワークショップでは、「どんな人が、どんな状態になるためにこのお金を使って欲しいか」を議論してきました。「社会的に孤立した人が、社会参加できるように」、「悩める若人が、自身の指針を発見できるように」など、様々な課題を抱えている人たちの為に使って欲しい、という意見が挙げられました。

また、「忙しい日々を送っている人の心が休まるように」、「丸亀に住む全ての人にとって、文化芸術が身近な存在になるように」といった意見や、「家族の会話の中でいつも『市民会館』というワードが出てくる」とよい」という意見もありました。

新しい劇場が、全ての市民の日常に溶け込み、文化芸術を通して心の支えになり、そして憩いの場になることが求められています。



アイデアは裏面へ



編集後記 N の視点

今回でついに最後の市民ワークショップとなりました。

みなさんとのこれまでの議論の中で、「誰の為に、何の為に」劇場を作るのかということを確認することができました。モノやお金だけではない、大事な芯の部分を見なさんと共有できたと思います。この芯の部分をしっかり持って、具体的な事業を考えていきたいと思えます。

また、ワークショップを通して、参加者同士のつながりが出来たことも成果の一つだと思っています。このワークショップは終わりになりますが、また別の形でこのつながりを広げていければと思っています。

最後になりましたが、お忙しい中ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。また、お会いしましょう。

グループ①

各グループのアイデア紹介！

変容

- ・引きこもりが刺激を受け世の中に一歩踏み出す勇気を得る場所
- ・暗い人生を送っている人が光を感じられるように
- ・悩める若人が…自身の指針を発見できるように
- ・文化教室等で何かしらの生きがいを見つけられるように

文化活動

- ・気軽に練習できる
- ・文化芸術活動をしている人のモチベーションが上がるように
- ・大人も子供も全ての市民に文化的な刺激が与えられる場所
- ・プチ自慢(特技)のある人が勝手に披露する場所

移住

- ・学生が立ち寄れる空間
- ・ここから大学の誘致に発展
- ・丸亀に楽しめる場所があるから移住したくなる

居場所

- ・安心して過ごせる場所
- ・忙しい人が心を休める場所(ポーっとする)
- ・子供も高齢者も癒される場所
- ・居場所のない人の居場所に
- ・子供たちがこれる魅力的な場に
- ・老人がゆっくりする憩いの場に

居場所から文化活動へ

- ・退職者が趣味を見つけ楽しめる場所
- ・劇場でありながら賑わえる場所
- ・すべての市民が文化の持つ可能性を評価出来るように

魅力

- ・観光客にも足を運んでもらえる(いい意味で…)トイレだけでも
- ・地域の文化発信の地に

交流

- ・高齢者が子供たちに生活の知恵
- ・若いママがママ友、友だちを作る場所

- ・芸術的欲求を満たせるように(対応できるように)



グループ②

社会の価値観が変化する

- ・すべての人が将来のビジョンを描けるきっかけになる
- ・少数派の人 →今までなかった発想活かす
- ・子ども →自主的な活動や発想

- ・社会的に孤立した人が社会参加できる
- ・仲間づくりができる
- ・障がいを持った人 →今までできなかったこと →健康者と一緒に行ける事
- ・普段はいい所が無い人 →いい所を見つけてもらえる

- ・各分野の全国大会
- ・市外に出た人が帰ってきたいと思える
- ・全国の人々が一度は行きたいと思える場所
- ・NHKの公開番組

- ・学びになる
- ・文化祭をみんなの劇場で
- ・各コミュニティの合同発表
- ・子ども →学校、家庭でできないこと

- ・かなしい時に行きたい場所
- ・うれしい時に行きたい場所
- ・お城に来た人が立ち寄る場所
- ・ワクワクした気持ちになれる
- ・気持ちが落ち着く
- ・しんどい人が思い思いにくつろげる場所

家族の会話に「市民会館」というワードが出てくる



グループ③

発表、ハレの場

- ・文化芸術に対する意識の上昇
- ・誰もが芸術を楽しめる
- ・誰もが文化を身近に感じる
- ・舞台に立つ幸せを感じられる
- ・機会を提供し才能を伸ばせる場
- ・地域の歴史的民族的舞の稽古場
- ・地元の学生たちが一同に集えるように
- ・舞台に立ってみたい人が舞台に立ち活躍できるように
- ・各々クラブ活動している人が発表できる場
- ・広い箱でイベントをしたい者が気軽に利用出来るように
- ・都市部に行けない人が観たい演目を観れるように
- ・いろいろな立場の人が意見交換できるように
- ・地元出身の表現者が凱旋公演出来るように
- ・自分の意見を主張したいものが大勢の前で発表できるように

鑑賞

- ・県外、国外の人が楽しめる
- ・地域にお金を落とす
- ・全市民が来たいイベントが継続的にある
- ・子供が文化芸術に触れる機会
- ・若者が楽しめる
- ・市民に好まれる公演が多い
- ・地域の収入を引き上げる

日常&交流

- ・内外の人が使える幅広い窓口
- ・誰もが居場所として使える
- ・母子父子家庭の人の来れる場
- ・40~60才の引きこもり
- ・お年寄りの話が聞ける場
- ・子どもからお年寄りまで
- ・人が人を呼び集う場
- ・話ができる場
- ・フラット&ピアノが弾ける場

地域のイベント

- ・市民のお祭りイベントの場
- ・年配が元気になるイベント

